

## 尾道市教育委員会主催「仲道郁代、ピアノのワークショップ」

- ・日程：2012年9月6日（木）、午前の部 10:45～11:30（3時間目）鑑賞  
午後の部 13:55～14:40（5時間目）ワークショップ 1、14:55～15:40（6時間目）ワークショップ 2
- ・場所：尾道市立向島中央小学校（広島県尾道市向島町 5979 番地 宇根本 久志学校長）
- ・対象：小学5年生2クラス 67名（1組担任：濱本 明子先生 2組担任：川村 祐貴先生 音楽専科：楠見 仁美先生）
- ・当日参加学生：12名（「ミュージック・コミュニケーション講座（MC）」履修生および既修生6名、「音楽によるアウトリーチ（OM）」履修生6名）
- ・役割分担：ファシリテーター8名（熊谷 OM4、廣瀬 MC3、松田 OM4、山田 MC3、大谷 OM4、山本 MC3、米澤 OM4、増田 MC3）、記録係4名（藤井 OM4、湯浅 OM4、奥村 MC3、大槻 MC3）（MC、OMは上記、数字は学年）
- ・指導：津上 智実（音楽学部教授、MC 及び OM 授業担当者）、アテンド：木村 明（連携ルーム・スタッフ）

### <当日までの流れ>

7月11日に仲道氏とミーティングを持ち、コンセプトの共有をした。7月20日には学内で、事前学習として「ワークショップ」「尾道」「仲道郁代」という3つのテーマでグループワークをし、それを互いに発表し合う勉強会を行った。子どもたちと一緒にイメージを広げて音楽作りをするためのテーマとして「向島のいいところ教えて!」と「夏休みにしたこと教えて!」の2つに絞って、仲道氏側に提案を行なったところ、前者での実施となった。8月29日～9月1日に行われた東京での3大学合同夏期セミナーにおいても参加者で繰り返しミーティングを行い、9月4日にはファシリテーターでミーティングをした。

### <当日の様子>

当日は、早朝の新幹線で尾道に向かい、駅前から渡し船で向島に到着。教育委員会の渡辺氏らに出迎えて頂いて、委員会の車で小学校に入った。

午前中（3時間目）の「鑑賞」では、モーツァルト<きらきら星変奏曲>を取り上げ、ボールやフラフープ、シャボン玉などを用いながら音とイメージを結び付けやすくしたり、ドビュッシー<喜びの島>に合わせて波を体で表現したりするアクティビティをはさみながら、仲道氏のピアノを2クラス一緒に鑑賞した。学生も「小学校5年生になりたいお姉さん」として生徒と一緒にアクティビティをしながら鑑賞した。前述の<きらきら星変奏曲>では、学生（大谷）が仲道氏の使う道具に操られるようにピアノを弾いた。

午後の「アクティビティ」（5時間目5年2組、6時間目5年1組）では、学生たちがファシリテーター役を務める形で、子どもたちと音楽作りのワークショップを行った。

まず導入として、全員で大きな円を作り、アイスブレイクを行った。ファシリテーター（増田、山田）の指示に合わせて、体の色々な部分を叩いたり撫でたり、手拍子を合わせたりした。次に、ドビュッシー<喜びの島>のモチーフを使ったリズムを、足踏み、手拍子、膝打ちで表現した。約5分という短いアイスブレイクだったが、次第に生徒たちにも笑顔が増え、一体感が生まれていった。

次に、4つのグループに分かれて、「向島のいいところ教えて」というテーマで生徒のアイディアを積極的に引き出しながら音楽作りをした（詳細はグループごとに後述）。



その後、再び全員が集合して大きな円となり、各グループで作った音楽をそれぞれ発表した。それらを前半のアイスブレイクで使用した〈喜びの島〉のモチーフのリズムで繋ぎ合わせて、〈喜びの向島〉という大きな作品へとまとめ上げた。最後の演奏では、仲道氏もピアノでアンサンブルに加わった。

最後に仲道氏が「ドレミだけが音楽ではない」「生活の中の音が重なって音楽になっていく」「暑い／冷たいにも音楽の可能性がある」と述べて締め括った。

ワークショップ中や終了後、普段生徒たちと接している担任の先生方が、「いつも発言しない生徒があんなに積極的に活動している」と驚いている様子も見受けられた。生徒たちは授業終了後、笑顔一杯の満足した表情で教室に帰って行った。

終了後、校長先生を始めとする学校の先生方、教育委員会の担当の方々を交えて、関係者一同で振り返りの時間を持ち、それぞれの立場から貴重な意見を聞くことができた。

## <振り返り会>

9月26日、各グループの反省の発表と自由討議という形での振り返り会を学内で行った。上手くいった点については、「オープンな雰囲気を作り出すことで、生徒たちが自由に自発的に発言できた」「子どもたちが住んでいる島をテーマにすることで、興味を引き付けることができた」「想いを音楽にすることができた」等の意見が挙げられた。一方で、「発言する生徒ばかりに目を向けてしまった」「たくさんのアイディアが出る中で、力不足のために生徒たちの意見を十分に活かすことができなかった」「時間配分が難しく、発表に向けての練習が不十分だった」等の反省点も挙げられた。このような活動で大切な点としては、「入念すぎるくらいの準備をしておく」「うまく緊張をほぐし、この場では自由にしていいたいということを知ってもらう」「出てくるアイディアを確実にキャッチし、心から『それ、いいね!』と言えるように心を開いておく」「リーダーはオープンでクリアな存在であるべきだ」という意見が出された。

文章：山田絵梨香 (MC3)

## <グループごとの音楽作りについて>

5年2組

### 【Aグループ】(熊谷、廣瀬)

女子生徒のみの和やかな雰囲気の中で「おせったい」というテーマを明確に設定した上で音楽作りに取り組んだ。話し合いに時間を費やして、時間が押してしまったが、生徒全員で共有する時間を持つことができた。足踏みからお賽銭を入れて鉦を鳴らし、お菓子を貰って満足するという過程を楽器や身振り手振りで表現した。生徒たちがファシリテーターに意識を集中させ、統率力のある発表会が出来た。お菓子の内容表現や食べた時の気持ちを含みきれなかったのが反省点である。



### 【Bグループ】(松田、山田)

男子生徒に女子生徒が1人だけ混じっているグループ。はじめに全員で一つの円になり、〈向島のいいところ〉を出し合うことに時間をかけた。食べ物や場所、生き物などが出たが、その中から生徒たちが選んだ千光寺、フクロウ、海について、どのような音がするかを全員で考え、鉄琴やウッドブロック、鈴、マラカスで表現した。鉄琴で千光寺の鐘を表現した生徒は、どの音をどのようにして叩けば鐘が表現できるかを時間いっぱい研究していた。



### 【Cグループ】(大谷、山本)

まず尾道のいいところを話し合った。高見山、海、みかんが挙げられ、それらを音や体の動きで表現していった。山に登る様子を腕や足を動かして再現し、海の「ざぶーん」という音はタンバリン、マラカスなどの

楽器で強弱をつけながら鳴らした。甘いみかんと酸っぱいみかんと、声のトーンや顔の表情を変えて表現した。最初は緊張ぎみであった生徒も、発表の時にはのびのびと音を出し、体を動かしていた。

【Dグループ】(米澤、増田)

全員で一つの円になり「向島での普段の生活や遊び」を出し合った。船の汽笛の音で始まり、市民センター「こころ」で勉強し、自転車でプールに向かう様子や気持ちを、体や声で表現した。汽笛の音はリコーダーで補うと生徒同士で研究し合っていた。音を少しはずして吹く事に初めは戸惑っていた様子であったが、最後は思い切り吹いていた。

5年1年

【Aグループ】(熊谷、廣瀬)

男女混合の快活なグループの中で、個々の意見を採用しながらテーマにとらわれない自由な音楽作りを心がけた。積極的に発言する生徒が中心になってしまいがちだったが、全員で意見を共有し合えたので食い違いはなかった。全体がスムーズに運び、時間が余ったため練習も十分に重ねた。線香から発想を膨らませ、蚊が飛ぶ様子や叩く動作、虫の声や暑さ、ソフトクリームを買って食べる過程などを表現した。練習がメインのようになってしまったので余った時間を何に補填するかを考えさせられた。



【Bグループ】(松田、山田)

男女の数がほぼ同数のグループ。はじめに全員で一つの円になり、「向島のいいところ」を出し合うことに時間をかけた。向島に限らず、尾道のいいところについての意見も出た。摺鉦、ギロ、鈴やマラカス、アゴゴベル等を使用し、造船場、ネコ、海、千光寺を表現した。海を担当した生徒は、波の大小をマラカスや鈴でどのように表現するか、試行錯誤していた。造船場を担当した生徒は、その騒々しさを摺鉦で表現していた。

【Cグループ】(大谷、山本)

まず尾道のいいところや夏休みどんなことをしたかなどを話し合った。海、魚、昨日の晩ご飯のささみ、暑い、が挙げられ、声やジェスチャー、楽器を使って表現した。普段おとなしい児童が「ささみ〜！」と意気揚々と声をあげ発表する姿が印象的であった。暑い音を表現するために、木琴でどの音を使うか、どんな風に叩くかなどを懸命に研究する児童もいた。



【Dグループ】(米澤、増田)

全員で一つの円になり「向島での遊びや食べ物」を出し合った。好きな楽器(鈴、カバサ、マラカス)を使用しサッカーの応援歌に合わせて音を出した。しかしサッカーは全員で共有しづらかった為、「みかん」も取り入れることにした。「甘い」「すっぱい」を木琴、鉄琴で使い分け、声色も変化させ工夫をしていた。